「元気」で「はつらつ」とした宝物さがし

塾 長　　渡 邉　　隆

「上越の元気の源はどこにあるのか？」を探り、私たちは、2006～2008 年の 2 年間、地域貢献を掲げる上越教育大学、新潟県立看護大学、上越市、新潟県上越地域振興局、新潟日報社が連携し「上越はつらつ元気塾実行委員会」という組織を立ちあげ活動してきました。その際は、協賛企業をはじめ多くの皆さまからご支援をいただき、誠にありがとうございました。

メイン事業である連続フォーラムでは、全国で活躍されている上越出身者の方々をお招きして、上越に対する思いやこの地域のすばらしさについて語っていただきました。そこで語られたのは上越の「ふるさと度」と「文化」の高さでした。

私たちはそれをうけ、新たにＮＰＯ法人「上越はつらつ元気塾」として出発します。今度は、私たちの足元、上越の中の宝探しの旅に出ます。

私たちの活動の中心は、塾の開催です。この塾には、市民の誰もが出席し、聴講できます。今年度は、「塾」船出の時です。特別な企画をします。私たちの地域には、明治、大正、昭和の文化史を動かした多くのすばらしい人たちが、住んだり訪れたりしています。そして、その人たちは町の人たちと交流し、この地の文化を語っていました。しかしそれは、彼らが、まだ無名の時代のことなのです。その人たちと交流のあった方々からお話を伺います。その語りを市民の皆さんと一緒に傾聴し、記録に残したいと思います。この活動テーマは、題して「上越を訪れた文化人」。この語りと熱き思いは、上越の文化の深さと興味を浮き彫りにしてくれるでしょう。

来年度は、年数回のペースで元気塾を開催いたします。私たちは、「元気」で「はつらつ」としたものを探します。それは、上越の生活のなかから生まれてきたもの ;「文化」そのものなのです。それを素材として、「おもしろさ」や「たのしさ」がいっぱいの塾講義をデザインします。これらの塾が重ねられると、上越文化の深くてあたたかな姿がうき出てきます。

私たちは、多くの先人の遺産で幸せな上越生活を楽しんでいます。これは、この地の「文化」が私たちの生活を「元気」に「はつらつ」としたものにしてくれているからにちがいありません。

そして、このことを私たちはさらに若い世代へ伝えていきたいと願っています。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

「ＮＰＯ法人取得 設立記念フォーラム」

ＮＰＯ法人上越はつらつ元気塾設立を記念し、上越地域の教育力、支える力を考えるフォーラムを開催。講師に、ＮＰＯ法人シブヤ大学学長　左京泰明さんをお迎えし、講演、トークセッションを行ないました。

特定非営利活動法人 上越はつらつ元気塾

設立記念フォーラム

―― 学ぶ、支える市民力 ――

と■き　7月21日㈬ 午後5時～7時
ところ　新潟県立看護大学　ホール

PROGRAM

◆開会挨拶・報告

上越はつらつ元気塾のこれまでの活動と今後の展開について

特定非営利活動法人 上越はつらつ元気塾 塾長（新潟県立看護大学学長）　渡邉　隆

◆話題提供

「シブヤ大学の取組み」

特定非営利活動法人 シブヤ大学 学長　左京（さきょう） 泰明（やすあき） さん

【シブヤ大学とは】
公開講座“シブヤ大学”は、生涯学習教育プログラムとして 2005 年に渋谷区長への提案が認められ、2006 年 9 月に開校。校舎はなく、渋谷の街がまるごとキャンパスで、カフェやレストラン、映画館、ショップ、公園などがそのまま教室になる。講師は、渋谷の街で活躍するクリエイターやデザイナー、カフェの店長や起業家、女将などいろんな人が先生になる。「地域密着型の新しい生涯教育」「新しい地域コミュニティづくり」として注目を集め、全国の行政・企業・市民からの問い合わせ約 100 件、海外からの問い合わせは 20 ヵ国にも及ぶ。
現在は渋谷、恵比寿、原宿表参道キャンパスの他、京都、名古屋、札幌、広島に姉妹校を持つ。

【左京泰明さんプロフィール】
1979 年生まれ。福岡県出身。
早稲田大学第二文学部卒。
住友商事に入社。経理部にて、会計・税務コンサルティングを担当する。2005 年、退社。
特定非営利活動法人グリーンバード副代表に就任（2006 年 3 月退任）。
2006 年 9 月、地域密着型の新しい教育学習システムの構築を目的とした特定非営利活動法人シブヤ大学を設立。

◆トークセッション 「上越地域の市民力を考える」

上越地域で活発に活動している団体の皆さんと上越地域の市民力を考えます。

アドバイザー	特定非営利活動法人 シブヤ大学 学長	左京　泰明 さん
コーディネーター	新潟日報社上越支社長・上越はつらつ元気塾理事	渡辺英美子
会場からのご意見	上越地域で活動する団体のみなさん	
まとめ	特定非営利活動法人 上越はつらつ元気塾 塾長	渡邉　隆

◆閉会挨拶

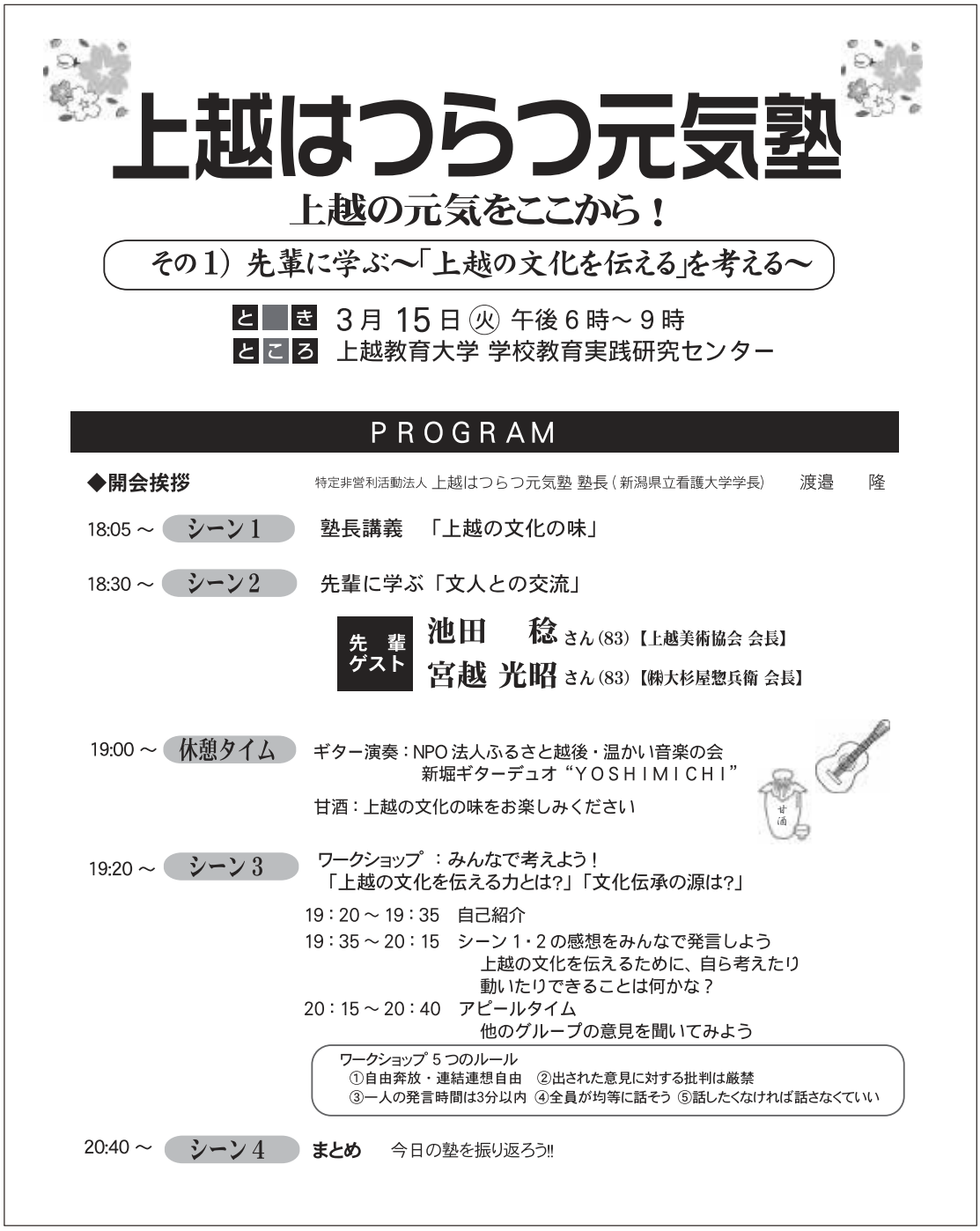
特定非営利活動法人　上越はつらつ元気塾 副塾長（上越教育大学理事）　戸北　凱惟

○参加者数／103 名

その 1）先輩に学ぶ～「上越の文化を伝える」を考える～

塾開催にあたり、会員で上越教育大学の水落芳明さん、渡辺径子さんにコンテンツデザイナーとして塾の組み立てに協力いただきました。

第 1 回の上越はつらつ元気塾は、82 歳という大先輩である池田稔さんと宮越光昭さんをお迎えして、昭和から平成の現在までの人物交流を語っていただきました。その後、6 グループに分かれた参加者が「上越の文化を伝える」についてワークショップを行ないました。今回は、高校生の参加を多数いただきました。



上越はつらつ元気塾

上越の元気をここから！

その1）先輩に学ぶ～「上越の文化を伝える」を考える～

とき　3月 15日 (火) 午後6時～9時
ところ　上越教育大学 学校教育実践研究センター

PROGRAM

◆開会挨拶　特定非営利活動法人 上越はつらつ元気塾 塾長（新潟県立看護大学学長）　渡邉　隆

18:05 ～ シーン1　塾長講義　「上越の文化の味」

18:30 ～ シーン2　先輩に学ぶ「文人との交流」

先輩ゲスト
池田　稔さん(83)【上越美術協会 会長】
宮越 光昭さん(83)【㈱大杉屋惣兵衛 会長】

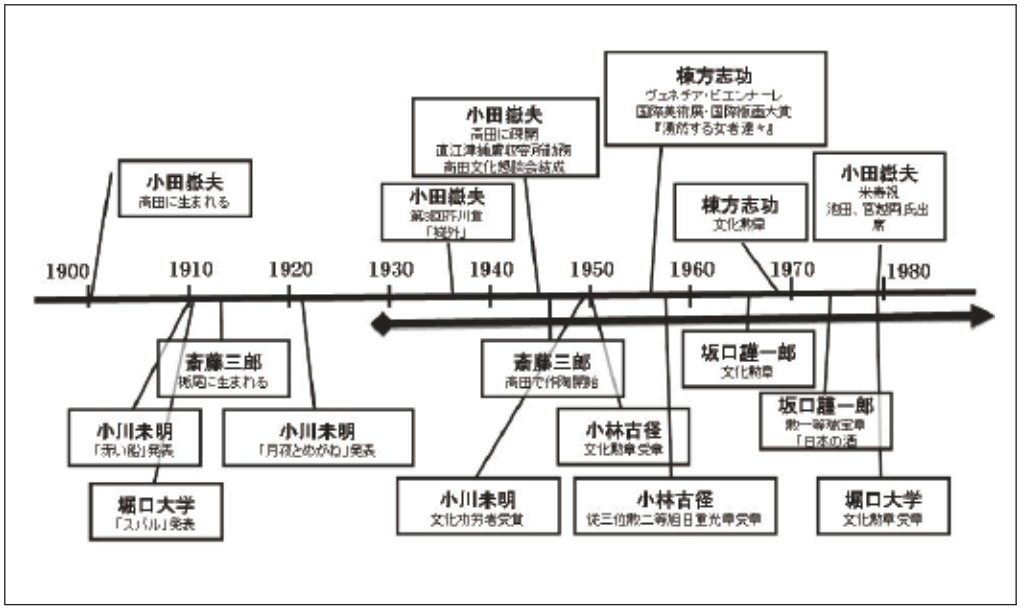
19:00 ～ 休憩タイム　ギター演奏：NPO 法人ふるさと越後・温かい音楽の会
新堀ギターデュオ“YOSHIMICHI”
甘酒：上越の文化の味をお楽しみください

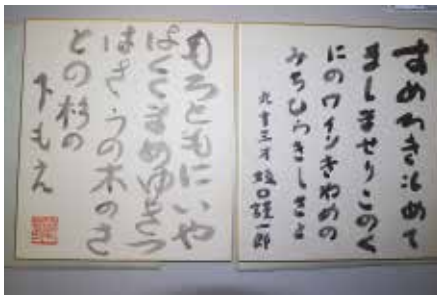
19:20 ～ シーン3　ワークショップ ：みんなで考えよう！
「上越の文化を伝える力とは?」「文化伝承の源は?」
19：20 ～ 19：35　自己紹介
19：35 ～ 20：15　シーン 1・2 の感想をみんなで発言しよう
上越の文化を伝えるために、自ら考えたり
動いたりできることは何かな？
20：15 ～ 20：40　アピールタイム
他のグループの意見を聞いてみよう

ワークショップ 5 つのルール
①自由奔放・連結連想自由　②出された意見に対する批判は厳禁
③一人の発言時間は3分以内　④全員が均等に話そう　⑤話したくなければ話さなくていい

20:40 ～ シーン4　まとめ　今日の塾を振り返ろう!!

○参加者数／53 名


小田嶽夫
高田に生まれる
小田嶽夫
高田に開業
直江津地震10年祭開催
高田文化懇談会結成
小田嶽夫
第3回芥川賞
「城外」
棟方志功
ヴェネチア・ビエンナーレ
国際美術展・国際版画大賞
『湧出する女者達々』
棟方志功
文化勲章
小田嶽夫
米寿祝
酒田、宮城県出席
1900
1910
1920
1930
1940
1950
1960
1970
1980
斎藤三郎
新潟に生まれる
斎藤三郎
高田で作陶開始
坂口謹一郎
文化勲章
坂口謹一郎
勲一等瑞宝章
「日本の酒」
小川未明
「赤い船」発表
小川未明
「月夜とめがね」発表
小林古径
文化勲章受章
堀口大学
「スパル」発表
小川未明
文化功労者受賞
小林古径
従三位勲二等旭日重光章受章
堀口大学
文化勲章受章



塾長雑感 平成22年7月28日

ー上越はつらつ元気塾は出発しましたー

7 月 21 日午後から、新潟県立看護大学でＮＰＯ法人「上越はつらつ元気塾」の設立記念フォーラムを開催しました。

私たちのＮＰＯ法人「上越はつらつ元気塾」の前身は、2006 年～2008 年に産学官の連携で連続講座を中心とした活動を行ってきた「上越はつらつ元気塾実行委員会」です。それをうけてのＮＰＯ法人「上越はつらつ元気塾」の新しい出発です。

会場には、実行委員会当初から関わっていただいた方々、協賛いただいた方々、そしてこの度のＮＰＯ法人「上越はつらつ元気塾」設立にあたり会員として参加くださった方々からおいでいただきました。

16：00 からはじまった総会は、たんたんと進み、役員の紹介も終わり、17：00 から「フォーラム」に移りました。ゲストは、「シブヤ大学」の左京泰明学長。左京学長の話題提供に引き続き、トークセッションに移り、上越地域の多くのＮＰＯ活動をしている皆様；城下町高田花ロード実行委員会、お馬出しプロジェクト、南本町活性化協議会、高田まちネット、えちご若者元気塾、マミーズ・ネットからの現在の活動状況が報告され、左京学長からのコメントをいただきました。左京学長の話は、とても興味深いものでした。現在の「シブヤ大学」の活動の実態とその具体例をもとにＮＰＯの本質をついたコメントでした。

いくつかとりあげると、

“やりたいことに、まっすぐぶつかっていくこと、そこにはどんな壁もない、それがＮＰＯだ。”

“今、私たちが直面している現場がその最前線である。”

“「あなたも先生」、「あなたが学生」というフラットな活動プラットフォームであること。”

・“現在活動している団体と連携し、地域の中でひろがっていくこと。”

などなど。

深く印象づけられたのは、「ＮＰＯ活動は、部活です。」のひとこと。今の学校教育においてクラブ活動（部活）は大きな意義を持っています。小中高時代の彼らにとって、「学校」は知的訓練の場であることと同時に多くの仲間と一緒に時を過ごす「学園生活」の場です。それは、社会人になる大きな基礎力であるにちがいないのです。「学園生活」を味わうのに最も有効なのが、部活や学級活動なのです。私たち大人も、メインの仕事とそれを支える趣味やスポーツなどのサブの活動が必要です。ＮＰＯの活動は、正に学校の「部活」なのです。そして、それがセカンドキャリアを作ります。これがリアルな人の生活なのです。

私たちは、未来に対して期待します。私たちがよい笑顔で生活できるように「はつらつ」で「元気」なＮＰＯ活動を行なっていきます。

塾長雑感 平成23年2月16日

第１回元気塾開催

2010 年 7 月、上越はつらつ元気塾は、「上越の元気の源はどこにあるのか！」をメインテーマにNPO法人として元気にスタートしました。そして、8 ヶ月の間、取材・準備を重ね、2011 年 3 月 15 日、第 1 回上越はつらつ元気塾を開催しました。

テーマは、「上越の元気はここから！」で、第 1 回の塾のサブテーマとして、“先輩に学ぶ～「上越の文化を伝える」を考える～”としました。

上越には、“文化”があるといわれています。私たちが考える「文化」とは、「生活」の中から生まれてくるものです。82 歳を迎えるお二人の大先輩;池田稔氏、宮越光昭氏に登場願って、昭和から平成の現在までの上越高田の街の人物交流を語ってもらいました。

ちょうど 3 月 15 日は、堀口大学の命日でした。高田公園には、堀口大学の石碑と歌碑があります。その碑の除幕式は、昭和 55 年に行なわれたのですが、その時、坂口謹一郎先生や、堀口大学の長女である、すみれ子さんも参列されています。その話題から会をはじめました。大先輩、池田稔氏、宮越光昭氏は、その式典の企画に加わっており、その時の話題をお話ししていただきました。お二人が、どのようにして坂口、堀口、両先生たちとおつきあいができたのかを伺っていると、高田には、昭和 10 年代から多くの文化人が、訪れていたとのことでした。堀口大学、棟方志功、坪田譲治、小田嶽夫、濱谷浩などとの交流をお二人の一世代前の方々が文化人との交流の舞台をつくっていたという話を伺いました。その様子を示す写真を私たちにみせてくれました。昭和 30 年 5 月に、「高田文化同好会総会」の集会写真でした。その中には、堀口大学、坪田譲治、小田嶽夫、浜谷浩などを囲む街の人たちの姿がありました。お二人の第 3 回芥川賞受賞の小田嶽夫との交流は、興味深いものがありました。小田嶽夫の記念碑をつくるための本人とのやりとりの中、小田の希望で高田公園ではなく、金谷山のふもとにひっそりと建つ碑の設立までの、小田氏とのやりとりに小田嶽夫の人生観を感じました。

お二人のエピソードの中で興味深かったのは、20 歳のとき、何のアポイントもなく、東京に住む小川未明のところに訪問したという話でした。どのようないきさつで訪問されたのかをお聞きしたら、「ただ、お会いしたかった！」とのこと。この若者らしいお話を聞き、とてもすがすがしい気持ちになりました。そんなに昔でもない、いまから 50～60 年前の旧高田の街に「豊かな人間交流のながれ」があり、その生活の中から「文化」が育ってきた歴史があることを知りました。

そんな大先輩の話をうかがい、人間交流の手紙や色紙や写真などを展示いただきながら、会は進行していきました。この文化の流れを次世代へ継続していきたいとの思いも、今回の企画の中で検討されていたことで、多くの高校生の参加もありました。その高校生たちの感想が、興味がありました。続くワークショップの展開などを行なうなかで、参加者からの「文化」についてのいろいろの意見を伺うことができました。会が終わった後の「ふりかえりシート」の中での高校生たちの声や、それをみている大人の姿がうれしい。

「元気が出た」「今の上越でめずらしい明るい会」「生活が文化をつくる」
「今を大切にしたい」「高校生の参加をよろこんでくれた年配の人たちがいたことがうれしい」「“好き”が文化をつくる」「「高校生がしっかりとした意見を述べていたのがうれしい」
「さまざまな人たちとの出会い」「若者が必要だという声に若者である高校生が反応した会だった」「不十分なことばで表現したことだったが、それに対して大人の人が『それはいいね』といってくれたことがうれしい」

などなど、すばらしい反応が出てきました。

「文化」は、生活の中で育てられていきます。その中にひたっている時は、また、創っている時は、その「文化」は「生活」ということばの中に入ってしまっています。時を経て、つくられたものが世に出てはじめて「文化」となります。

気持ちのよい人間関係の中、その交流という「生活」のなかで育てられたもの、それが「旧高田の文化の泉」なのです。お二人は、当時、ひとりの「若者」として体験してきたことが、のちの文化の大きな「泉」の中にいたことをお二人からうかがうことが出来ました。

掲載記事（平成22年7月～23年3月）

産官学連携フォーラム「元気塾」

NPO法人で再始動

上越・21日 設立記念し講演会

公開講座など企画

上越地域の大学と行政、企業が連携して実施してきた「上越はつらつ元気塾」が本年度、実行組織をNPO法人化し、新たな活動をスタートする。21日には法人の設立記念フォーラムとして、NPO法人シブヤ大学（東京）の左京泰明学長による講演と、地域の教育力・地域力を考えるトークセッションを開催する。

「元気塾」は「地域の教育力」の充実を目的に、上越教育大、県立看護大、県、上越市、新潟日報社による実行委員会で2006年にスタート。作家の五木寛之さんをはじめ、さまざまな分野で活躍する専門家を講師に、08年まで市民向けの連続講座とフォーラムを開催した。

終了後も市民から継続を望む声が多く、実行委で検討した結果、NPO法人として活動を続けることになった。誰でも参加できる公開講座の企画・開催を事業の柱とし、地域の活力づくりに貢献する。

塾長を務める県立看護大の渡辺隆学長は「上越には元気の出るはつらつとした文化がたくさんある。そうした文化を拾い出し、学び、育てるとともに、地域を支える力として再認識する活動を行っていきたい」と話している。

本年度は、詩人堀口大学や版画家棟方志功ら上越地域を訪れた文化人の足跡について、実際に交流のあった市民から語ってもらい、記録に残す聞き取り講座を計画している。

設立記念フォーラムは21日午後5時～7時、上越市の県立看護大講堂で開催。参加無料。会員も募集している。問い合わせは事務局、025（521）2627。

新潟日報 平成 22 年 7 月 8 日

NPO法人で再始動

上越はつらつ元気塾

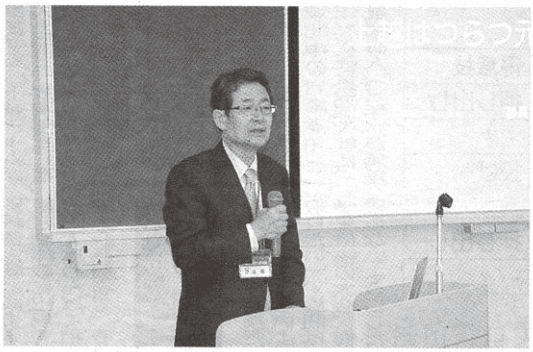
産官学の連携で上越地域の活性化に取り組んできた「上越はつらつ元気塾」がこのほど、運営組織をNPO法人に移行させ、再始動。二十一日に上越市の県立看護大で設立総会を開いた。今年度は上越にゆかりのある文化人と交流した市民の聞き取り調査を行い、市民に身近な文化を継承していく構えだ。

法人化は体制強化が主な目的で、設立来の思いと活動で培ってきた〝財産〟は受け継ぎ、これまで取り組めていなかった次世代への伝承にも力を入れていくという。聞き取り調査では、坂口謹一郎博士や作家・小田嶽夫ら出身者、版画家・棟方志功ら文化人と交流した、〝生き証人〟にすでに当たりを付けており、公開講座形式で実施したいという。

塾長の渡邉隆・同大学長は、「上越の元気の源は生活者の経験、生活の知恵」と定義し、講座では生活を切り口に市民が身近に感じるテーマを設定。「現代の寺子屋を目指したい」と意気込みを見せた。

同組織は、上越の活性化への方策を探ろうと上越教育大と看護大、市、県上越地域振興局らによる実行委員会で平成十八年に設立。一昨年度まで著名人ら各分野の専門家の講演会や市民向け講座を開くなどしてきた。

心療内科クリニック
ふわの医院
025-522-0820
上越市北城町3-5-8
診療は予約制です



設立総会であいさつする渡邉塾長

上越タイムス 平成 22 年 7 月 25 日

上越の宝探し出発

NPO設立でフォーラム　元気塾

NPO法人「上越はつらつ元気塾」の設立を記念したフォーラムが21日、上越市の県立看護大学で開かれた。市民ら約100人が参加。「街が丸ごとキャンパス」「誰でも先生、誰でも生徒」をコンセプトとする同法人シブヤ大学（東京）の左京泰明学長の講演に耳を傾けた。

冒頭、元気塾の塾長を務める県立看護大の渡辺降学長は「地元にある元気ではつらつとした宝物を探しに出発します」とあいさつした。

講演で左京さんは、シブヤ大学の講座企画について紹介。「地域の宝探しと言われたが、僕らも同じことを思っている。生徒として参加した人がスタッフになることもある。楽しく、市民に主体的にかかわってもらえる活動にすることが大事」などと語った。

元気塾は地域の教育力の充実を目指し、2006～08年に上越教育大、県立看護大、県、市、新潟日報社の連携で開催した連続フォーラムが前身。活動を継続しようと本年度、法人化した。今後は、地域の文化に根差した市民参加型の講座を企画開催していく。

新潟日報 平成 22 年 7 月 24 日

ＮＰＯ法人
上越はつらつ元気塾

認証日　平成22年６月16日
住所　上越市高土町

定款
「地域の教育力」「支える力」をテーマに、産、学、官とのパートナーシップを実現し、上越地域の市民に生きる知恵を身につける場を提供することで地域の活力づくりに寄与することを目的とする。

上越の元気の源はどこにあるのか。地域が持つ教育力や文化などを通して発見して行こうと、２００６年に上越はつらつ元気塾実行委員会としてスタートしたのがきっかけでした。多くの企業からの支援を受け、全国各地から著名な講師を招き13回に及ぶ講座やフォーラムを開催。そこで、改めて上越には素晴らしい地域資源がたくさんある。足元にある宝探しをして行こうと、ＮＰＯ法人として継続的に活動していくことになりました。

古くから城下町として栄え、人々の生活の中で歴史や文化が育まれた上越。文化度の高い素材を一つ一つ時間をかけ調査し、寺子屋のように学んでいける場を作りたいと考えています。

また、文化や歴史は若者に受け継いでいかなくては意味がないという思いから、過去と現代を結びつけながら、次世代が面白いと思えるようなものを発信していきたいと考えています。

（渡邉　隆理事長）

上越タイムス 平成 22 年 8 月 2 日 NPO PRESS

新潟日報 平成23年3月17日

高田の文化継承考える

上越で「はつらつ元気塾」

高校生らが論議

上越地域活性化のヒントを探る講座「上越はつらつ元気塾」が15日、上越市西城町の上越教育大学・学校教育実践研究センターで開かれ、市内の高校生ら約50人が上越の文化を継承していくには何ができるかなどを熱心に話し合った。

NPO法人「上越はつらつ元気塾」が主催した。塾長で県立看護大の渡辺隆学長が「上越の文化の味」と題して講演。堀口大学や小林古径、小川未明といった上越・高田に縁のある文人を紹介し、「彼らが活躍していた50年ほど前の高田には豊かな文化があった」と話した。

地域を元気にする活動に取り組む高田農業高校レクリエーションクラブとして参加した2年生の太田大介君(17)は「高田にたくさんの文人がいたことは知らなかった。この文化を自分たちがどうやって引き継いでいけるか考えたい」と話していた。

上越で活躍した文人らについて学んだ「上越はつらつ元気塾」＝15日、上越市

郷土の偉人 人柄は

証人たちが交流秘話

はつらつ元気塾

産官学の連携で地域活性に取り組む、上越市のNPO法人上越はつらつ元気塾（塾長・渡邊隆看護大学長）は十五日、上越教育大学校教育実践研究センターで、法人発足後初の講座を開いた。坂口謹一郎博士や棟方志功ら上越にゆかりある偉人と交流を重ねた市民から秘話を聞いた。

講演したのは、上越美術協会長の池田稔さんと大杉屋惣兵衛会長の宮越光昭さん。二人は、小川嶽夫や小川未明、小林古径らと交流。講演では、彼らとのエピソードを明かしながら個性、人間性なども披露。

発酵の権威として知られる坂口博士は、歌人の顔も持ち、ともに自作の歌を朗られたこと、「仕事に厳しかったが、われわれには優しかった。郷土愛のあふれる人だった」と紹介。上越に一時、身を寄せていた棟方志功は「超地球人、宇宙人的な人だった」とも。

出席者は、それぞれのエピソードに驚き、高校生らは教科書にも載る偉人の素の部分に興味を引かれた様子だった。講演後は、「文化の伝承」をテーマに出席者でワークショップを行い、財産を次代につなげる方策などを話し合った。

同法人は、平成十八年から活動してきた任意団体を発展させる目的で昨夏に発足。五年間の活動で培ってきた"上越の財産"を引き継ごうと、現在は「伝承」を活動の主軸に置いている。

坂口博士ら上越にゆかりある偉人のエピソードを明かす宮越さん（奥左）と池田さん

上越タイムス
平成23年3月17日掲載